

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	つばめ療育館・児童発達支援		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 5日		2026年 1月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	2025年 12月 5日		2025年 12月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達支援コンサルタント(保健師)が、月1回ご利用児の個別評価のために来館していること。 常勤の作業療法士がいること。	利用前には、発達支援コンサルタントまたは作業療法士による個別評価を行い、発達の遅れ(前庭覚・固有覚・触覚)と思われる原因を探り児童発達支援計画に反映させている。	支援開始から定期的に個別評価を行い、発達の改善が見られるかを確認している。
2	身体調和支援を取り入れて支援していること。 身体調和支援で身体のバランスなどを整えた後に、運動課題(感覚統合療法)と個別課題(言語・認知・コミュニケーション能力など)を行うプログラムが確立していること。	発達支援コンサルタント主催の専門研修に直支援を行なう作業療法士や保育士が順次受講し、修了者は再受講を行っている。 直接支援を行う専門職で日々の振り返りを行い、改善効果を確認し合い児童発達支援計画の継続や修正を判断している。	直接支援を行なうリーダー格の作業療法士が、発達支援コンサルタントが主催する更に専門性の高い研修を継続的に受講する。そのために、研修費は事業主負担とし休日の受講は代休扱いとする体制を取る。
3	HUGシステムを利用し、利用当日の様子を分かりやすく伝えられていること。	写真を含め利用時の様子を伝えている。取り組み姿勢や表情なども伝えることで、ご利用児のみで通所していても安心していただけるようにしている。	写真を含めた記録を取っていきながら、具体的な改善状況を随時保護者にお伝えしていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ご利用児のみの支援であることから、HUGシステムを活用しているものの保護者からご利用児に対し、現状で家庭でもできること(やっていただきたいこと)などをお伝えし辛いこと。	保護者には、HUGシステム上の記録やお知らせの配信を見ていただける方とそうでない方がいられるため。	利用開始前にHUGシステム上のマイページを活用してもらえようようにお手伝いをする。
2	小集団での活動が主体のため、より個別での支援が適したご利用児への配慮が難しいこと。	小集団での活動プログラムの枠が決まっっていて、個別支援が困難であるため。	より個別での支援も行いやすくなるよう、小集団の人数を減らすことや別空間での個別支援を行う。
3	法人全体の規模が大きくなり、発達支援コンサルタントによる再評価の順番が遅れること。	児童発達支援の事業所(10名定員)が4か所あるため、新規利用児優先で個別評価を行っているため。	発達支援コンサルタントに代わり、知識と経験が豊富な作業療法士の暫定評価で繋いでいく。